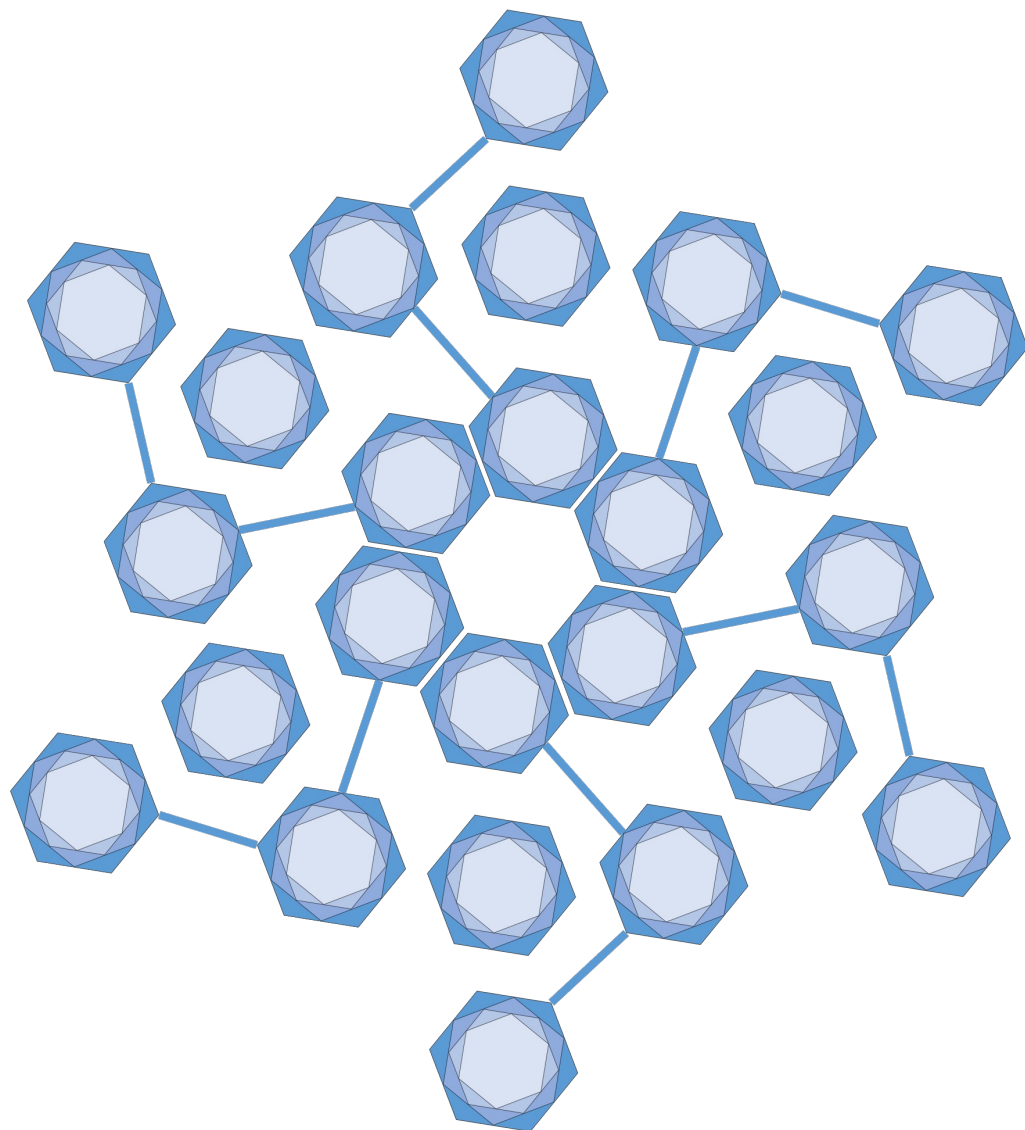


<第2号通信>



**ACT Japan ANNUAL CONFERENCE 2023**  
**Osaka**

*09-10 March, 2024*

**連携と発展**

——哲学・理論・研究・実践の関係を考える——

*January, 2024*

# 大会概要

## 日時・開催方法

### 日時：

2024年03月09日（土）－10日（日）

### 開催方法：

対面

◇会場＝追手門学院大学

総持寺キャンパス

（大阪府茨木市太田東芝町1-1）

- ※一部プログラムは録画し、  
会員限定（年次ミーティング不参加者含む）での  
無料配信を計画していますが、  
機材状況等により実現できない場合があります
- ※録画の質等は保証できかねますので  
予めご了承ください
- ※フリーのWi-Fi (eduroam含む) はありません

## 参加費

一般会員 : 4,000円  
学 生 : 2,000円  
非 会 員 : 8,000円

- ※会員区分での申込みには、  
今年度の学会年会費の納入が必要です
- ※2024年1月23日（火）の理事会までに  
入会承認を得て、1月31日（水）までに  
入会金と年会費をお支払いいただいた場合は、  
一般会員として参加申込み可能です
- ※ポスター発表時にドリンク提供  
（追加料金無し）を予定しています

## 参加申込

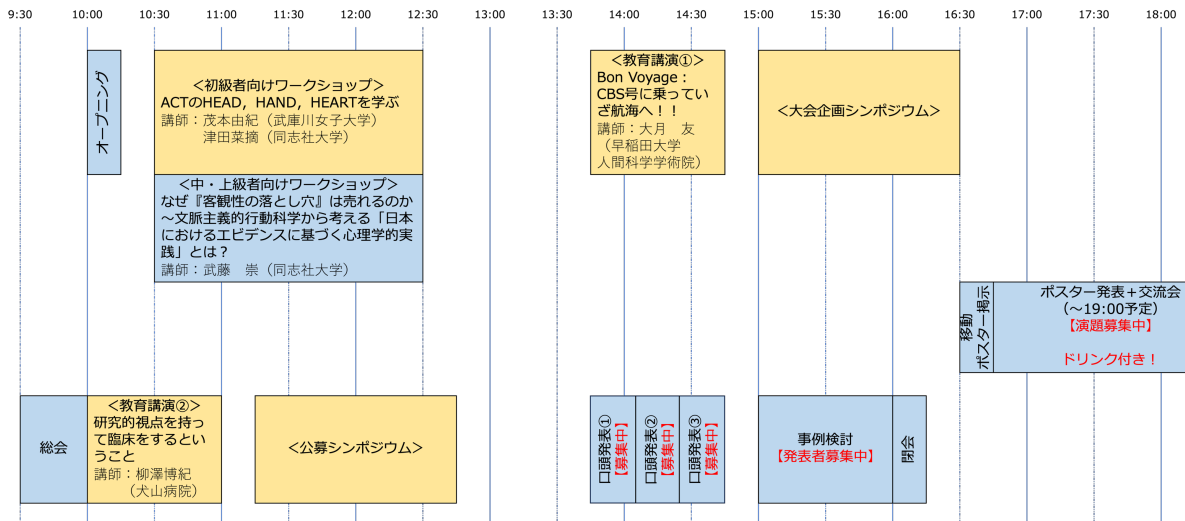
Peatixよりweb申込みをお願いします

<https://actjapan2023.peatix.com/>

会員の方はMiiT+の会員番号が必要ですので、ご確認ください



## プログラム（予定）



……録画予定プログラム

### <会場限定>

- ・中・上級者向けワークショップ  
「なぜ『客観性の落とし穴』は売れるのか～文脈主義的行動科学から考える「日本におけるエビデンスに基づく心理学的実践」とは？」  
武藤 崇（同志社大学）
- ・口頭発表（学術発表／情報交換）  
【募集中】
- ・事例検討  
【募集中】
- ・ポスター発表（学術発表／情報交換）  
【募集中】

### <録画予定>

- ・初級者向けワークショップ  
「ACTのHEAD, HAND, HEARTを学ぶ」  
茂本由紀（武庫川女子大学）  
津田菜摘（同志社大学）
- ・教育講演①  
「Bon Voyage :  
CBS号に乗っていざ航海へ！！」  
大月 友（早稲田大学人間科学学術院）
- ・教育講演②  
「研究的視点を持って臨床をすること  
ということ」  
柳澤博紀（犬山病院）
- ・シンポジウム

## 参加申込

Peatixよりweb申込みをお願いします

<https://actjapan2023.peatix.com/>

会員の方はMiiT+の会員番号が必要ですので、ご確認ください



## 演題募集／発表申込

※絶賛募集中（一部延長！）※

◆事例発表・口頭発表：  
～2023年12月22日（金）～  
2024年02月10日（土）

◆ポスター発表：  
～2024年02月10日（土）

次ページの申込要領をご確認の上、Webからお申し込みください



<https://forms.gle/hj7qNEnwJsANjw5x7>

# 申込要領

## 公募シンポジウム

公募シンポジウムは90分枠です。企画者はACT Japanの会員に限ります。公募シンポジウムの企画を申し込む際は、内容をご作成の上、Web申込をお願いいたします。応募多数の場合は、大会準備委員会による審査によって採否を決定いたします。

- (1) 自己企画の企画名
- (2) 企画者、司会者、話題提供者、指図討論者  
(全員の氏名、所属、会員/非会員)
- (3) 800字以内の企画概要

※配信の可能性があるため、事例発表は不可

## 事例発表

事例検討会の事例発表者を募集します。発表者はACT Japanの会員に限ります。以下の内容をご確認の上、Web申込をお願いいたします。

- (1) ACTに基づく個人セッションか、集団による介入かは問いません。他の学会および学会誌等で公表したものでかまいません。
- (2) クライアントおよび所属機関から発表同意が得られているなど、一般的な倫理的手続きを経ている必要があります。また、個人情報の保護に努めてください。場合により発表をご辞退いただくこともございますので、予めご了承くださいませようお願い申し上げます。
- (3) 事例検討は発表時間は30分、質疑応答、ディスカッションは30分程度です。
- (4) 発表の応募については、事務局により選考させていただきます。

※web申込とは別に、発表内容の概要(800字以内)をご送付いただきます。詳細はweb申込画面でご確認ください。

## 口頭発表

口頭発表は、発表15分・質疑応答5分の20分枠です。発表者はACT Japanの会員に限ります。口頭発表には「学術発表」と「情報交換」の2タイプがあります(※1)。事例発表等も可能です。口頭発表を申し込む際は、以下の内容をご作成の上、Web申込をお願いいたします。応募多数の場合は、大会準備委員会による審査によって採否を決定いたします。

- (1) 口頭発表の演題名
- (2) 発表者氏名、所属、会員/非会員
- (3) 400字以内の要旨

## ポスター発表

ポスター発表の在籍時間は60分です。筆頭発表者はACT Japanの会員に限ります。ポスター発表には「学術発表」と「情報交換」の2タイプがあります(※1)。事例発表等も可能です。ポスター発表を申し込む際は、以下の内容をご作成の上、Web申込をお願いいたします。

- (1) ポスター発表の演題名
- (2) 筆頭発表者、共同発表者  
(全員の氏名、所属、会員/非会員)
- (3) 400字以内の要旨

### ※1 口頭発表/ポスター発表の2タイプ

**学術発表**：原則として、研究の目的・方法・結果・考察・引用文献などの項目に分けて記述し、「科学論文の要件」を満たした発表が該当します。事例研究も可能です。演題の採否は、事前に提出された発表要旨に対する大会準備委員会による審査によって決定いたします。

**情報交換**：他学会等での発表済みの内容、研究計画、実践報告、独自に作成したメタファー・エクササイズ・プログラムの紹介など、自由な内容の発表が該当します。以前に別の学会で発表したものの、ACT Japan会員からも意見を貰いたい、新しい研究のアイデアがありディスカッションしたい、面白い情報/アイデアを持っているので披露したいなど、自由な形式にてご発表いただけます。なお、情報交換での発表の場合は、研究業績とはなりませんのでご注意ください。

※絶賛大募集中※



<https://forms.gle/hj7qNEnwJsANjw5x7>

# ワークショップ・教育講演概要

## 中・上級者向けワークショップ (03/09 Sat 10:30-12:30)

なぜ『客観性の落とし穴』は売れるのか

～文脈主義的行動科学から考える

「日本におけるエビデンスに基づく心理学的実践」とは？

講師：

武藤 崇 (同志社大学)

概要：

『客観性の落とし穴』(村上靖彦・著)は、昨年のベストセラーの1つである。つまり、この著作がベストセラーとなるのが、現在の「日本の文脈」である。そのような文脈において「エビデンスに基づく心理学的実践(EBPP)」は、どのような意味を持つのか(あるいは、どのようにしたら、その本来の意味を持たせることができるのか)。そこで、本ワークショップ(以下、WSとする)は、文脈的行動科学(CBS)の観点から、参加者間で、「その意味」を討論することを目的とする。

また、本WSの概要は、①『客観性の落とし穴』のレビュー動画(60分間程度:武藤作成)およびアメリカ心理学会によるEBPPの概要説明の動画(60分間程度:武藤作成)をWS開始前までに視聴する、②①を踏まえて、現在の「日本の文脈」を明確化する(討論:30分)、③CBSを再度確認する(講義の予定:30分)、④CBSに基づいた「日本におけるエビデンスに基づく心理学的実践」の具体的行為を明確にする(討論:60分)、という構成を予定している。

## 初級者向けワークショップ (03/09 Sat 10:30-12:30)

ACTのHEAD, HAND, HEARTを学ぶ

講師：

茂本由紀(武庫川女子大学)・津田菜摘(同志社大学)

概要：

本ワークショップは、初心者の方がACTを体験的に学ぶことを目的としたワークショップです。本ワークショップでは、ACTのHEAD, HAND, HEARTを扱います。HEADではACTの基本哲学である機能的文脈主義について皆さんでおさらいしていきます。HANDでは、ACTを実施する上でのメタファーやエクササイズについて概観します。HEARTでは、ACTを実施する際に重要となる姿勢や考え方について体験的に学びます。

本ワークショップでは、前半はACTの基本哲学やスキルであるメタファーやエクササイズについて体験的に学んでいただき、ご自身の基本知識の確認をしていただきます。後半はACTを実際に実施する上で重要となる姿勢や考え方について体験を交えて学びを深めていただきます。

ACTの基礎知識だけでなく、実際にACTを実施するうえで大切にすることはなんなのかを皆さんと一緒に学んでいきます。

## 教育講演① (03/09 Sat 13:30-14:30)

### Bon Voyage : CBS号に乗っていざ航海へ！！

講師：

大月 友 (早稲田大学人間科学学術院)

概要：

ACT JapanのWebサイトを見ると，“Contextual Behavioral Science”という言葉が至る所にあります。CBSと略されるこの言葉は、日本語にすると「文脈的行動科学」となります。ひょっとすると、「ACTをやりたくて入ったけど、なんでCBSなの？」と疑問に思う方もいるかもしれません。実は、ACT第2版 (Hayes et al., 2012；武藤ら監訳, 2014) によると、応用心理学者も基礎心理学者も、実践家も研究者も、みんなCBSという同じ船に乗った共同体だと書かれています。どうやら我々はCBS号に乗船しているようです。いつの間に・・・。

この講演では、我々のマザーシップであるCBS号について考え、一人ひとりの役割について見直すことを通して、大会テーマである「連携と発展：哲学・理論・研究・実践の関係を考える」に取り組んでみたいと思います。みんなで良い旅にしましょう！

## 教育講演② (03/10 Sun 10:00-11:00)

### 研究的視点を持って臨床をすること

講師：

柳澤博紀 (犬山病院)

概要：

「臨床実践における研究的視点について話して欲しい」との依頼を受け、「実践論文が数本しかない私が講演なんて身分不相応だ」という否定的思考や不安な感情に飲み込まれそうになりました。ただ、ACTに出会ったおかげで鍛えられた“ウィリングネス癖”が発動して、二つ返事で引き受けてしまいました。せっかくの不安や緊張をたくさん“買える”機会ですので、講演当日もウィリングネスに臨んで、私の精神科臨床の中での着想を恥ずかしげもなく披露する場にする予定です。

改めて振り返るとケース開始時の治療関係形成や、聞き取りとケースフォーミュレーション、標的行動の選定と測定、介入の開始と効果の評価、ケースの終結、そしてその後の実践報告と、研究的視点を常に持ちながら臨床活動をしている自分に気づきました。

実践家として強く伝えたいのは「研究を重ねるために臨床をするんじゃない！ クライアントさんたちの幸福を積み重ねていくために研究的視点をもって臨床するんだ！」です。こんなメッセージが伝わる講演になればと考えています。

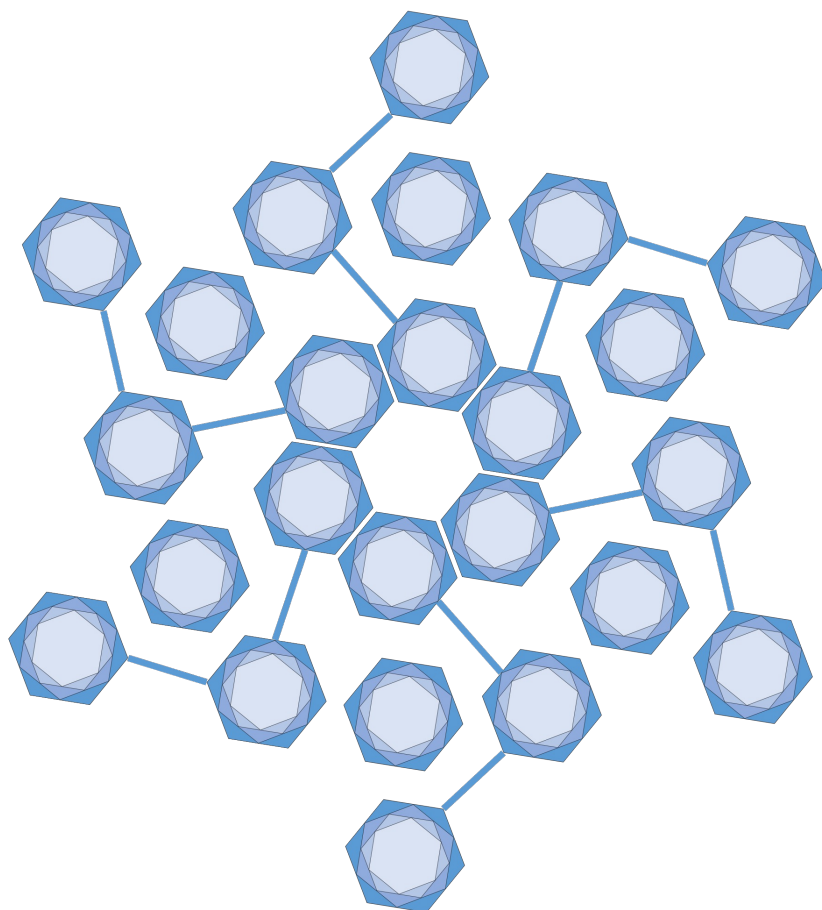
## 参加申込

Peatixよりweb申込みをお願いします

<https://actjapan2023.peatix.com/>

会員の方はMiiT+の会員番号が必要ですので、ご確認ください





# ACT Japan ANNUAL CONFERENCE 2023

Osaka

09-10 March, 2024

## STAFF

### ◆準備委員◆

茂本由紀 (武庫川女子大学)  
井上和哉 (立命館大学)  
伊藤雅隆 (福島大学)  
津田菜摘 (同志社大学)

### ◆開催責任者◆

嶋 大樹 (追手門学院大学)

お問い合わせ：ACT Japan年次ミーティング2023運営事務局  
act.japan.annual@gmail.com